令和　5　年度　　国　　語　　科　シラバス

科　目	現代の国語	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	1年・全クラス
使用教科書	「新編　現代の国語」（数研出版）				
補助教材等	「新編　現代の国語　準拠ワーク」（数研出版）				

1　学習の到達目標

言葉による見方,考え方を働かせ,言語活動を通して,国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。【知識及び技能】

(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし,他者との関わりの中で伝え合う力を高め,自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【思考力・判断力・表現力】

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに,生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ,我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち,言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。【学びに向かう態度・人間性等】

2　学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○社会生活を円滑に営む上で必要なコミュニケーション力の基となる「言葉」の力を身に付けるための大切な授業です。学習活動それぞれのねらい・目的を意識しながら,積極的に授業へ取り組んでください。

○予習として本文を通読し,意味のわからない語句を明らかにしておきましょう。内容的に疑問を抱いた点については授業内で解決し,授業後はふり返って内容を確認してください。

○授業では「読む」「書く」活動だけでなく,「話す」「聞く」活動も行います。互いに相手が理解しやすいよう工夫を凝らしつつ自分の考えや思いを伝え合うことで,思考力を鍛え,表現力を磨くことができます。

○国語力の伸長を図ることは,短期間で効率的にできることではありません。日頃から本を読み,活字に慣れ親しむことで,語彙力を増やし,表現の幅を広げ,豊かな日本語の力を身に付けるよう心掛けましょう。

3　学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	実社会での課題設定及び課題解決につながる国語の知識や技能を身に付けて適切に使っている。	多様な他者と考えを共有し認め合いながら,伝える力を高め，自分の思考を広げたり，深めたりしている。	言葉の価値への認識を深めるとともに,自分の考えを相手にわかりやすく,筋道を立てて伝え,言葉を通して積極的に他者や社会と関わろうとしている。
主な評価方法	・ペーパーテスト（事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題）の結果	・ペーパーテスト ・レポート記述内容 ・グループでの話合いや発表などの場面での観察	・授業中の発言内容や行動観察 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容 ・グーグルフォーム上の課題の取り組み,または課題の提出状況

４　学習及び評価計画

※評価の観点：（a）知識・技能，（b）思考・判断・表現，（c）主体的に学習に取り組む態度

月	単　元	教　　材	時数	学　習　内　容	評　価　規　準
４ ５	書き手の意図をつかむ	「目指す世界の地図を作る」 （鴻上尚史）	10	・具体例を確認しながら主題に至る論の構造を把握し,筆者の主張をまとめる	・文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している(a) ・文章の種類を踏まえて,内容や構成について叙述を基に的確に捉え,要旨を把握している(b)
５ ６	対比関係を読み取る	「里山物語」 （日高敏隆）	12	・自然と人工の対比を用いながら,里山文化に見られる特徴について論じる叙述の方法を把握し,現在の自然観の問題点を理解する	・対比の働き,表現効果について理解している(a) ・文章の論理展開について的確に捉え,要点を把握している(b)
７ ８	コミュニケーションについて学ぶ	「世間話はなぜするか」(松井智子)	12	・コミュニケーションが持つ2つの側面について把握し,筆者が主張する「世間話」の効果を理解する	・個別の情報と一般化された情報との関係について理解している(a) ・コミュニケーションの価値について理解を深めようとしている(c)
８ ９	言葉の働きをとらえる	「コインは円形か」	12	・同じ事象に対して,複数の見方,考え方が存在することに気づき,筆者の主張を踏まえながら,自らの視野を広げる	・新しい視野を獲得することの大切さについて理解している(a) ・自分の考えや見方について相手にわかりやすく説明している(b)(c)
10 11	書き手の考えを比較する	「科学と非科学」(中屋敷均)	12	・筆者が主張する「科学」と「非科学」の違いを対比的に整理し,「科学」「非科学」へのアプローチについて考えを深める	・「科学」「非科学」における対比の働き,また共通点について理解している(a) ・身近なものを例にとり,筆者の主張をわかりやすく他者に説明している(b)
12 １ ２	根拠を読み取る	「『差』という情報」(佐藤雅彦) 「『わらしべ長者』の経済学」	12	・「差」という観点から展開される筆者の思考の過程を読み取り,「差」が持つ意味を考察する ・昔話から経済学の考え方を説明しようとする筆者の論理の組み立て方について理解している	・具体と抽象の区分け,すなわち個別の情報と一般化された情報との関係について理解している(a) ・内容や書き手の意図を解釈し,自分の考えを深めている(b) ・文章から筆者の主張を読み取り,その主張に対する自分の考えをまとめ,表現を工夫して説明しようとしている(c)